

JR秋田駅・JR秋田支社ビルが 「木材利用による二酸化炭素固定認証」の交付を受けます

JR秋田支社は、秋田県・秋田市と一体となり、地域と連携して取組む「ノーザンステーションゲート秋田」として次の20年に向けた秋田の活性化を目指した取組みを進めております。

この度、JR秋田駅（4月1日グランドオープン）及びJR秋田支社ビル（4月24日使用開始）が7月8日開催「2017あきた水と緑の森林祭」の記念式典にて、秋田県より「木材利用による二酸化炭素固定認証」の交付を受けることになりましたので、お知らせいたします。

1 制度概要

「木材利用による二酸化炭素固定認証」

木材利用が地球温暖化防止や森林の多面的機能の持続的な発揮につながることの認識を高め、県産材の利用を促進することを目的として、県産材を一定量使用した建物等の木材の二酸化炭素固定量を評価する制度

2 制度実施主体

秋田県

3 各施設木材活用経緯

・JR秋田駅

駅周辺における木材利用推進の動き（秋田駅西口バスターミナル、秋田駅中央改札等）を踏まえ、県都の玄関口である秋田駅を秋田杉で整備し、中心市街地の活性化、観光流動の創造を図る。

・JR秋田支社ビル

1階エントランス付近を秋田杉の内装とすることで、来訪者をお迎えする。

4 各施設「木材使用量」及び「二酸化炭素固定量」

・JR秋田駅

木材使用量 : 28.4m³ 二酸化炭素固定量 : 16.3 t-CO₂

・JR秋田支社ビル

木材使用量 : 3.8m³ 二酸化炭素固定量 : 2.2 t-CO₂



J R 秋田駅（中央改札前付近）



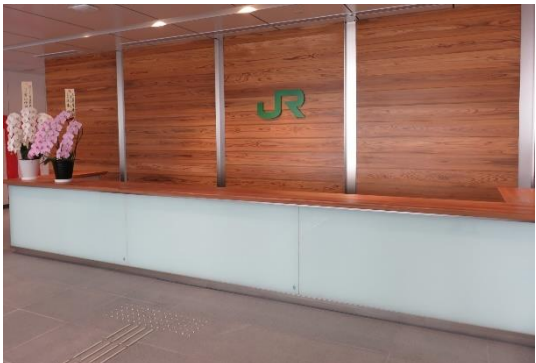
撮影：浅川 敏



J R 秋田駅（駅ビルトピコ 2階入口付近）



撮影：浅川 敏



J R 秋田支社ビル（エントランス付近）

